

科学技術社会論学会

内容

2023 年度 活動報告 (p.1-3)

『科学技術社会論研究』編集委員会からのお知らせ (p.4)

海外関連学会の紹介 (p.5-6)

事務局より (p.7)

- ・ ニュースレター編集方針を変更
- ・ 入会申込みをオンライン化
- ・ メールアドレス登録のお願い
- ・ 書籍寄贈についてのお願い

学会事務委託先

〒162-0801

東京都

新宿区山吹町 358-5

(株)国際文献社内

科学技術社会論学会

E-MAIL: sts@as.bunken.co.jp

TEL: 03-5937-0317

FAX: 03-3368-2822

2023 年度 活動報告

科学技術社会論学会

会長：綾部 広則

5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことで、これまで休止を余儀なくされていた懇親会が復活するなど、本年度は、学会活動がずいぶんと正常化しました。12月に大阪大学豊中キャンパスで開かれた第22回年次研究大会・総会では、215名にもものぼる方々のご参加を得ました。これだけ多くの方々にご参加いただいたのは、岸本充生大会長をはじめとした実行委員会の皆様のご尽力によるものですが、それに加えて、久しぶりに懇親会付の対面開催であったことも大きかったのではないかと思います。

一方、6月7～10日には、本学会がホストとなって、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、国際技術哲学会(SPT, the Society for Philosophy and Technology)第23回国際会議が開催され、内外から300名にもものぼる方々のご参加を得ました。直江清隆理事には招致の段階から大変なご尽力をいただきました。また開催にあたっては本学会会員の皆様にも多大なご協力をいただきました。ハイブリッドで開催されたこともあり、以前とは比べものにならないくらいの労力を要したと伺っております。参加者にとっては便利なオンライン開催ですが、運営側にとっては対面に負けず劣らず負担が大きく、ボランティアベースで行われる学会活動のあり方について考えさせられる1年だったように思います。

2023 年度会員状況 (2024 年 3 月 29 日時点)

正会員	428 名
学生会員	70 名
機関会員	1 件
購読会員	10 件
寄贈	1 件
合計	510

2023 年度カレンダー

2023 年

- 4 月 5 日 第 96 回理事会 (2023 年度 1 回目)
- 6 月 7-10 日 国際技術哲学会 (SPT, the Society for Philosophy and Technology) 第 23 回国際会議 (国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 6 月 11 日 国際技術哲学会/科学技術社会論学会シンポジウム「技術とモビリティー誰もが自在に移動できる未来を実現するために」 (日本未来科学館)
- 9 月 21 日 第 97 回理事会 (2023 年度 2 回目)
- 11 月 11・12 日 第 36 回日本リスク学会年次大会 (協賛: STS 学会)
- 11 月 18 日 STS ステートメント・サイエンスセッション (サイエンスアゴラ 2023 出展企画/後援: STS 学会)
- 11 月 28 日 第 98 回理事会 (2023 年度 3 回目)
- 12 月 9・10 日 第 22 回年次研究大会・総会 (大阪大学豊中キャンパス)
21 グループセッション (発表 61 件) /12 オーガナイズドセッション (発表 44 件) /参加者 215 名
第 99 回理事会 (2023 年度 4 回目)
大会実行委員会シンポジウム「研究倫理審査をアップデートする: ELSI/IRRI を組み込んだ技術開発・社会実装の作法」
2023 年度科学技術社会論・柿内賢信記念賞 選考結果発表
特別賞 柘植あずみ氏/奨励賞 藤本大士氏・有賀雅奈氏/実践賞 渡辺 健太郎氏

2024 年

- 1 月 28 日 『科学技術社会論研究』第 22 号「特集: 科学・技術と民主主義」発行
- 3 月 19・20 日 東日本大震災・原子力災害 第 2 回 学術研究集会 (後援: STS 学会)
- 3 月 27 日 第 100 回理事会 (2023 年度 5 回目)
- 3 月 29 日 ニュースレター2023 年度号 発行

写真で振り返る 2023 年度



6 月 7 日から 10 日まで国際技術哲学学会が開催された (右)。左は 11 日に開催された公開シンポジウム「技術とモビリティ」でのパネルディスカッションの様子。



2023 年年次研究大会は大阪大学豊中キャンパスで 12 月 9-10 日に開催された。初日の公開シンポジウムのテーマは「研究倫理審査をアップデートする:ELSI/RRR を組み込んだ技術開発・社会実装の作法」(右)



大会初日の 2023 年度 科学技術社会論・柿内賢信記念賞授賞式の様子 (左)。懇親会で 2024 年度大会について発表する横山広美理事。

『科学技術社会論研究』編集委員会からのお知らせ

科学技術社会論研究 編集委員会 編集委員長：原 朔

会員の皆さまには、日頃よりのご支援について、深く感謝いたします。現在、次回年次大会前の刊行を目指して、学会誌第 23 号の作成を進めております。日比野愛子会員を取りまとめ役とする特集：科学のシャドウ・ワークのすべての原稿を編集委員会で点検している段階です。

編集委員会はできるだけ定期会議を待たずに、可能な限りウェブベースで審議を行い、早めの採否の判断に努めています。査読の依頼は一ヶ月の期限で行っていますが、しばしばそれ以上の時間を要します。また、適切な査読者を見つけるまでに、一ヶ月以上の時間が経過してしまう場合があります。査読者から査読報告書の提出を受けて、編集委員会として評価を下すまでに必要となる時間は、二週間から一ヶ月くらいです。ですから、査読プロセスを一回、回すのに必要な時間は、だいたい、三ヶ月前後です。投稿者による書き直しが一ヶ月ですんだとして、査読プロセスを二回、回し、投稿論文の採否がおおむね見えてくるまで、合計で七ヶ月となるでしょうか。しばしば、これ以上の時間がかかってしまう場合があります、ご投稿くださる皆様に、大変、申し訳なく思っています。

第 17 号以降に掲載された論文の受付日と掲載決定日を以下にあげます。（「→」の左側が受付日、右側が掲載決定日です。査読回数は一回に限らないことを念頭においてご覧下さい。）

17 号掲載論文	2018/4/5 → 2019/1/17
18 号掲載論文	2018/6/8 → 2019/11/10
	2019/4/8 → 2019/11/10
	2019/6/8 → 2019/11/10
19 号掲載論文	2019/6/27 → 2020/11/21
20 号掲載論文	2020/12/10 → 2022/1/18
	2021/5/18 → 2022/1/18
21 号掲載論文	2022/3/24 → 2022/8/25
22 号掲載論文	2022/8/17 → 2023/3/14
	2022/11/10 → 2023/5/15
	2023/1/22 → 2023/8/12



掲載が決定した原稿については、希望の様式（紙 or 電子ファイル等）で採択通知を発行させていただきます。また、発行をめぐる進行情報については刻々変わりますので、投稿をご希望の方は編集委員長までお問い合わせいただければ、その時点での最新情報をお知らせいたします（事務局ではなく直接お尋ねいただいてもかまいません）。会員の皆さまの積極的な投稿をお待ちしております。

最後に、査読をご担当くださった先生方、ご協力、どうもありがとうございました。

海外関連学会の紹介

科学技術社会論学会 理事： 山口 富子

STS に関連する海外のプログラムについて紹介するにあたり、Society for Social Studies of Science (4S)の年次大会は不可欠な存在であるため、4S の大会を中心に海外のプログラムについて紹介をさせていただきます。

4S の年次大会は、そのミッションである *Fostering interdisciplinary and engaged scholarship in social studies of science, technology, and medicine across the globe.* を成し遂げるために、世界各地で年次大会を開催しています。2010 年には、当学会と合同で 4S 東京大会が開催され、2014 年にはブエノスアイレスで (Estudios Sociales de la Ciencia y la Tecnología : ESOCITE との合同開催)、2022 年にはメキシコの Cholula で (ESOCITE との合同開催) 年次大会が開催されました。そして 2027 年には台湾で (台灣科技與社會研究學會との合同開催) 年次大会が予定されています。

4S の年次大会は大規模であり、例えば 2023 年のハワイ大会では 200 ものオープンパネルが開催されました。ハワイ大会のプログラム委員として約 2,000 件のアブストラクトを 20 名の委員で手分けして読みましたが、運営の一部にすぎないプログラム委員ですらかなりの作業量であったことから、大会の運営の中枢を担った方々はさぞかし大変な思いをされたことでしょう。

4S の年次大会の特長として、参加者の多様なニーズを満たすようなプログラム構成があげられます。多様なテーマを取り扱う数々のセッションのみならず、開催地ごとに特色ある大会テーマの設定や基調講演、また STS の実践活動を紹介する *Making and Doing* プログラムや研究の途中経過を発表できるラウンドテーブル、そして新規参加者を支援するメンターシップ・プログラムなど、さまざまなプログラムや取り組みがあります。また、学部教育のカリキュラム開発やペダゴギーについて情報交換ができる場もあり、教育活動に役立つリソースやアイデアが得られる機会も提供されています。

このような大会を通じて、最新の研究動向を一度に把握できるというメリットの一方で、大会の規模が大きくなることにより個別の研究者とのコミュニケーションが難しくなる場合もあります。参加者との個別の関係づくりが必要な場合、参加者の数がより少ない各国の STS 学会やプログラムへの参加を検討してはいかがでしょうか。以下に今年度アジア太平洋地域で開催される各国の STS 学会や教育プログラムの一部を紹介します。



2023 年ハワイ大会のプログラムの表紙と基調講演の様子

Science, Technology, & Human Values STS School

- ・ 開催日：2024 年 6 月 3 日～6 日
- ・ 場所： シンガポール
- ・ 締切： 2024 年のプログラムの参加応募はすでに締め切りが過ぎているが、2026 年に同様のプログラムが開催される見込み。
- ・ ウェブサイト： <https://www.sthvschool.org/>

Science, Technology, and Society (STS) in Asia: Tackling Socio-Technical Challenges from An Interdisciplinary Perspective

- ・ 開催日：2024 年 6 月 18 日～26 日
- ・ 場所： 北京
- ・ 締切： 2024 年 3 月 31 日
- ・ ウェブサイト： <https://www.harvard-yenching.org/news/science-technology-and-society-sts-in-asia/>

2024 Korean Association of STS Annual International Conference: Rethinking Science, Technology, and Care in the Age of Multiple Disasters

- ・ 開催日：2024 年 12 月 6 日～8 日
- ・ 場所： ソウル
- ・ 締切： 発表申し込みはすでに締め切られているが、参加は可能。
- ・ ウェブサイト： <https://networks.h-net.org/system/files/attachments/2024-kastscfp.pdf>

Call for Proposals for Special Issues: Science, Technology, & Human Values

- ・ 特別号の企画募集
- ・ 締切： 2024 年 6 月 21 日
- ・ ウェブサイト： https://4sonline.org/news_manager.php?page=35122

アジア太平洋地域で開催されるイベント等のリストサーバ

- ・ <https://groups.google.com/g/transasiasts>
- ・ <https://groups.google.com/g/AusSTSgrad>

国際学会の年次大会やプログラムは、研究や教育活動を発展させるための貴重な場であり、自身の研究や教育活動を世界に発信するための重要な機会となります。研究のフェーズや自身のニーズを見極めながら、国際的な STS コミュニティの議論に積極的に参加していただきたいと思います。

ニュースレターの編集方針を変更

本『ニュースレター』は、理事会や大会、その他諸情報を会員にお伝えするメディアとして、年 4 号の発行を基本としてきましたが、適宜編集方針を変更し、2020 年度からはそれまでの郵送で紙媒体をお届けする形式から、会員 ML で PDF をお届けする方式に変更しました。

2023 年度の今号からは、基本的に年度末に 1 回、その年度の報告をまとめて、非会員も含め広く発信する媒体として編集していきます。

これは 2023 年 1 月にウェブサイトのリニューアル公開に伴い、ニュースレター・学会ウェブサイト・学会誌の役割を整理したためです

(2023 年度総会で承認済)。なお名称は「(最新の) ニュース」というよりは「アニュアル」としたほうが適切かもしれませんが、これまでの伝統にのっとり同じ名前を継承していきます。

入会申込みをオンライン化

これまで、本学会への入会申込みは学会ウェブサイトから入会申込書をダウンロードして、それを電子メールで事務局に送付する方式をとっていました。これを 3 月 24 日よりオンラインでの入会申込みへと変更します。手続きが簡素化されましたので、これを機に入会をぜひ御検討ください。

メールアドレス登録のお願い

新年度にむけてメールアドレスが変わる方は、学会ウェブのマイページからログインして再登録をお願いします(アカウント名およびパスワードは会費請求書に印刷)。あるいは右の学会窓口にご連絡・問い合わせください

書籍寄贈についてのお願い

会員や関係者の皆様から、学会事務局に献本を頂いております。頂いたものは評者に再送する必要があります。手間とコスト削減のため、今後寄贈を希望する方は、郵送前にまず学会事務局

(sts@as.bunken.co.jp) までご連絡ください。直接評者に送れるように調整いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

科学技術社会論学会

われわれは、科学技術と社会の界面に生じるさまざまな問題に対して、真に学際的な視野から、批判的かつ建設的な学的研究を行うためのフォーラムを創出することを目指し、科学技術社会論学会を設立するものである。

(設立趣意書より)

編集

科学技術社会論学会事務局
編集長 川本 思心

問い合わせ

科学技術社会論学会事務局
(sts@as.bunken.co.jp) まで

学会窓口

〒162-0801
東京都
新宿区山吹町 358-5
(株)国際文献社内
科学技術社会論学会
E-MAIL: sts@as.bunken.co.jp
TEL: 03-5937-0317
FAX: 03-3368-2822

科学技術社会論学会

ニュースレター 2023 年度号

2024 年 3 月 29 日発行